



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)
冷戦構造の決定的深化—ロシア包囲網と対中戦略
ヨーロッパ報告

2024/06/18

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は6月17日です。私は現在パリにおりまして、今日飛行機でスペインのマドリードに移動し、18日19日はスペインで講演しますので、お近くの方はどうぞお越しください。

さて、土曜日と日曜日にパリで講演したのですが、会場は古い教会堂、カトリックの教会堂でした。その前に立つと、神父さんになったみたいなきががしましたね。ちょうど講演会をやっている時、道路に面している所に、少なく見積もっても30台ほどのパトカーと、警官が大量に動員されていました。

欧州議会で右派政党が大躍進したんです。これはフランスだけではないですよ。ヨーロッパの色々な国で右派政党がものすごく伸びて、左派の人たちが「こんなこと許してなるものか！」「極右に政治を乗っ取られてはならない！」と叫びを上げるためのデモだったんですね。

私なんかは、選挙で決まった結果をデモで批判しても仕方ないじゃないかと思うんですが、フランス人はそう考えない。選挙で決まろうが何だろうが、デモは一つの権利として認められている。ということで声を上げるんです。

もう一つ、こちらの多くの方々が「極右が」「極右が」「極右が」と言うのですが、これは多分に、マスコミの影響を受けている可能性があるなと思っています。極右なのか、中央なのか、普通の右寄りなのかは、自分の立ち位置によって変わるんです。

フランスでもマスコミのほとんどは極左です。極左から見ると、中央も極右に見えることがあると思いますね。私はヨーロッパ各地でそれを痛感しています。特に移民問題。移民の中の大部分の方々は、市民社会に定着していると思います。しかし、一部非常に過激な、特にイスラム原理主義の考えを持っている人、そして、その背後に何らかのスポンサーを持っている人たちがいて、大暴れしていることもあるんですね。これは日本にも関わって来ることなので、詳細は帰国してから講演会で紹介します。

さて土曜日の講演会では、エゼキエル書38章から終末預言について話しました。長期戦を狙っているロシアが戦い抜くには、単独ではもたないんですね。そこでロシアは、中国やイランを仲間に引き入れながら、盤石の態勢をつくらうとしているんです。

それに対する強烈なカウンターがイタリアサミットでした。このサミットで、冷戦構造が決定づけられていることが明確になったと思います。

大きく分けて2つですよ。

1つの柱は、ロシアに対するABCD包囲網。

ロシアは長期戦を戦っていくために、色々目に見えない支援を受けています。

ロシアに金融支援したり、軍事転用が可能な、いわゆるデュアルユースの半導体部品を輸出している国がありますよね。その筆頭が中国ですよ。

また、NATOの一員でありながら、ロシアを水面下で応援して、半導体物質を出している国があるんですよ。トルコですよ。

トルコもやがて、ロシアと一体になっていくことがエゼキエル書に書いてあります。

今回のサミットでは、水面下でロシアを支援する国・個人に対して金融制裁をかけるぞと。支援をやめないなら、中国もドル決済圏やユーロ決済圏から追放されるので、そうになったら経済が完全に分断化されます。

冷戦が終わったらグローバル経済になりましたね。

グローバルは地球という意味。地球の中に線引きがなくなって、人・物・サービスの往来自由。これがグローバル経済ですよ。

だけど、金融の締め出しを受けると、一気に分断化が進みます。

これは、ロシアに協力する者は、中国であっても干されるぞという予告なんですね。

もう1つは中国本体に対する制裁。

中国に大きな関税を掛ける形になります。具体的には電気自動車ですね。

今、世界最大の電気自動車はテスラではありません。もうとっくに中国のEVに追い抜かれてます。生産台数なんか比べ物にならない。

だけど、中国のEVは補助金で支援されて作ってるんですね。

公正な貿易競争ルールに則ってない。だからトランプ大統領は、自分が大統領になったら100%関税を掛けると言ってるんです。バイデンも関税バーン上げると決めました。

そういうテクノロジーの塊のような製品だけじゃなくて、日常で使うような物にも、これからプレッシャーを掛けていきます。

というのは、汎用品も圧倒的シェアを持つと脅威になるんです。

皆さん、覚えてはありますか。新型コロナウイルスが世界中に蔓延した時、マスク足りなくなったじゃないですか。皆がメイドインチャイナのマスクに全面依存していたからです。中国はそれを完全に囲い込んでしまいました。

中国の国営企業が作っているマスクじゃないんですよ。

中国に進出している日本企業が作っているマスクも、中国政府が出さないと決めたら出せないんです。出して欲しかったら中国に協力しなさいと、脅迫材料として使ったんですね。

そういったことを、やっぱり世界は覚えているんですよ。アメリカを追い抜いて中国中心の世界をつくっていくために、着々と戦略的に動いていることが見えている。なので、そうはさせないぞという今回のG7の判断なんです。

このことは、中国を追い詰めていくのに強力なパワーとなります。
鍵となるのは、実は日本なんです。中国が人権蹂躪をやったり、横暴なことをした時に、いつも止め男の役をする国があったんですよ。日本ですよ！

一番典型的なのが今から 35 年前です。1989 年 6 月 4 日、天安門事件がありました。その当日、「中国を人権問題で追い詰めると、中国政府を余計に頑なに作るから、そういうことはするべきではない」と言った国があったんです。日本です！その時の首相は宇野宗佑（うの そうすけ）。

宇野さんは天安門事件の前日に総理大臣になったんです。そして、中国を大目に見ることが、長い目で見て行った時、西側と付き合いをすることで貿易潤うし国益になるし、独裁体制やめるといふ形になるんだと言って、中国に対する包囲網の突破口になったのが日本ですよ。恥ずかしい話ですよ。

その時、宇野さん何と言ったか。「そもそも、これは国内問題でしょ」と言ったんです。天安門事件というのは、人民解放軍が人民を、学生を、若者たちを戦車で轢き殺したんですよ。問答無用に。それに対して「中国の国内問題だから」って。これは、中国が人権蹂躪やウイグルの人たちを弾圧していく時に使う論法の「国内問題です」「内政干渉になるでしょ」。それをあの時、日本が言ったんです。

宇野さんは色んなスキャンダルで、3 か月くらいで首相を辞めました。後任が海部俊樹（かいふ としき）首相。海部さんは 1990 年に円借款再開。1991 年に自ら中国訪問。そんなことやっている西側の国、どこも無いんですよ。日本が一番乗りで中国を訪問した。

そして、とうとう 1992 年に宮沢内閣だったと思いますが、天皇皇后両陛下に中国に行っていたとくという段取りをし、これが中国包囲網の突破口となって、中国は「日本は愛（う）いやつじゃ」と日本企業を優遇。「大きな市場があるから、今中国に出ないと出遅れますよ」と、中国がどんどん有利になるようにやったのが日本じゃないですか。私その時見てて、ほんとに恥ずかしかったですよ。それでも与党なのかと。自民党、いったい何しとんのかと思いましたね。

私に政治経済を教えてくださった、その時の保守の大御所がいるんです。彼に毎月呼び出されて色々手ほどきを受けたのが、私の政治理解の基礎になっているんですけど。

結局長い目で見た時、中国は改革開放が進んで民主主義の国になっただろうか。なってないんですよ。改革開放経済をする傍ら、独裁体制のもとで軍備大増強して、今日本の尖閣も沖縄も狙われているじゃないですか。さすがに日本も学習しましたよね。

だから今回の G7 で、岸田首相は「中国にそんなことをするのは、やり過ぎだと思

います」と言いませんでした。が、与党の中で、「やり過ぎだ」とやいやい言っているのがあるじゃないですか。公明党ですよ。

岸田首相はそんなんに耳を貸さんと、今の世界の潮流は冷戦構造を決定づけていくことなので、日本もぜひその路線で行っていただきたい。

その路線は、エゼキエル戦争で、ロシアといわゆる強硬路線・専制主義の国のグループが出来上がっていくことに繋がってるんです。

私たちはまさに終末時代に生きていると言えるのです。

詳しくは帰国してからお話ししますので、ぜひ続けて見ていただけたらと思います。

チャンネル登録もお願いします。また、ごうちゃんねるでお会いしましょう。

皆さん、お元気でいらしてください。さいなら！